

観測部月報

★

東亞天文協會

★ 流星課だより (100)

課長 小 槇 孝 二 郎

三月は二月と同様、流星数は少い月である。著しい流星群はないが従来見られてゐる流星群は次の様である。

出現期	輻射點 (α , δ)	附近の星	性質
1日→1日頃	116° + 5°	獅子 χ	緩
上 旬	270 +47	山猫 26	
15 日 頃	250 +54	龍 ϵ	速
18 日 頃	316 +78	セフェス β	緩
下 旬	161 +57	大熊 β	速
×	×	×	×

前回報告後受領した観測報告は下記の通りである。

- 川人武正氏 (香川県笠田村) 十二月分
- 堀田泰生氏 (横濱市) 十二月分
- 坂部清一氏 (京都市) 九 月分
- 谷口裕康氏 (神戸市) 九, 十, 十二月分
- 吉井耕一氏 (廣島縣井原) 十, 十一, 十二月分 (概略報告)
- 西尾利夫氏 (大阪市) 十 月 分

十二月双子座流星群

筆者の外、吉井、堀田、谷口の諸氏も観測されてゐるが出現程度は例年の通り豊富であつた。下に筆者及吉井氏の結果を掲げる。

日 附	小 槇						吉 井					
	時間 数	流星数	双子座	一時間 平均	r	平均 修正値	時間 数	流星数	双子座*	一時間 平均	r	平均 修正値
12-13	60 ^分	24	9	9.0	0.9	10.0	345	142	77	13.4	0.8	16.8
13-14	70	31	21	18.0	0.9	20.0	340	245	178	31.4	0.8	39.3
14-15	100	48	17	10.2	0.8	12.8	360	253	199	33.2	0.8	41.5
15-16	70	12	4	3.4	0.9	3.8	165	33	12	4.4	0.8	5.5
16-17	90	29	2	1.3	0.9	1.5						

* 吉井氏の双子座中には双子座 β 流星群も含めてある。

極大は筆者のものでは13—14日の夜になつてゐるが、吉井氏の結果によれば翌14—15日の夜も同程度のもを見てゐる。筆者の觀測から双子群の輻射點を3個求めたが、この期間に他に2—3の流星群の活動も指摘し得た。

タトル彗星に關聯する小熊流星群

川人氏及筆者は21, 22兩日朝、吉井氏は22日朝觀測を行つた。兩三者とも若干の同群に屬する流星を見てゐるが著しいものではなかつた。22日朝の筆者の行つた一時間の觀測中同群に屬するもの6個、輻射點は大約 $\alpha=225^\circ$, $\delta=+75^\circ$ (小熊座 β 附近) であつた。

吉井氏の流星寫眞

吉井氏は十月乃至十二月に計17個の流星寫眞を得てゐるが、其中オリオン群7個、牛座群1個、双子群6個を得てゐることは特筆すべき事である。

(昭和14, XII, 31記)

★ 太陽 課 (1939年12月)

報告者 13名 (前月に同じ)

天候 概して好晴が多かつたらしい。個人別にも20日を起へる人が僅かでも顯はれたのは喜ばしい。木邊による推定觀測可能日は28日位であつたらしい。ともかく全員で補へば連日觀測結果を得て居る。

概況 更に前月よりも靜隱に歸し、相對數平均は約30%位の減少らしく、木邊個人の結果では、1936年8月以來の最低値に降つた。明かに極盛期は過ぎたらしいが、然し未だ無黒點日は顯はれて來なかつた。今後、漸減はしつつも時には顯著な活動を示す事も豫見されるから、引續き課員諸氏の健全なる觀測を期待する。

肉眼的可視黒點	津留	木邊	正村	計
觀測日數	14	13	22	49
出現日數	0	1	2	3
黒點群數	0	1	1	1
可視黒點累計數	0	1	2	3

報告者が尠なかつたが、出現比は僅か0.06であり、月初めに一群認められたに過ぎなかつた。此の點でも今月の平靜さが示されてゐる。

南北半球別の比較	津留	來田	南	木邊	山田	沓掛	阿部
南	28.7	31.7	32.1	36.5	32.2	27.6	35.2
北	14.4	14.2	12.2	26.4	21.8	18.9	18.8

7名の平均に依れば、南1.00に對し、北0.57、即ち南0.64%、北0.36%となつて、前月以上に南偏し、殆んど2倍近く南に多く出現した様である。

其他 沓掛氏よりは例月通り各黒點群概略緯度の報告があつた。同様に阿部

黑點相對數報告 (1939年12月)

觀測者(觀測地)	坂上 務(福岡市大名町)	津留 繁雄(熊本市本莊町)	谷口 裕康(神戸市苅合區)	來田 晃(大阪市大正區)	南 時生(大阪市明星商業)	木邊 成麿(滋賀縣中里村)	正村 一忠(岐阜市濠旗町)	山田 達雄(愛知縣犬山町)	大石 辰次(靜岡縣青木村)	番掛 七二(長野縣青木村)	すばる會(橫濱市)	小石久太郎(東京市神田區)	阿部 正明(東京市池袋)	片山 八郎(東京市立一中)
口徑 mm	42	130	40	50	25	75	25	69	55	102	20	58	28	50
倍率	64	45	50	53	54	60	48	44	64	75	50	64	45	32
方法	投	投	直	直	直	直	直	直投	直	直投	直投	直	投	投
1	82	曇	缺	缺	47	63	36	缺	曇	曇	缺		46	82
2	曇	〃	〃	缺	66	57	曇	缺	40	39	〃		52	缺
3	〃	〃	〃	49	29	47	35	缺	43	缺	〃		47	〃
4	〃	48	缺	35	28	47	35	曇	36	曇	51		缺	62
5	〃	37	〃	缺	11	34	24	曇	22	36	缺		33	12
6	25	11	〃	〃	11	缺	曇	曇	曇	曇	〃		曇	曇
7	27	16	〃	〃	30	18	30	缺	16	35	〃		曇	雨
8	55	41	〃	〃	38	30	缺	68	14	26	〃		缺	38
9	曇	曇	〃	〃	42	42	曇	曇	47	39	〃		40	?
10	84	〃	〃	〃	雨	曇	曇	雨	曇	41	〃		55	缺
11	98	60	〃	〃	69	缺	71	47	59	36	〃		63	96
12	曇	曇	〃	〃	缺	曇	86	缺	44	44	〃		59	96
13	〃	70	〃	〃	曇	97	曇	46	58	曇	〃		缺	曇
14	〃	曇	〃	〃	缺	64	88	曇	74	48	〃		76	99
15	67	〃	〃	〃	曇	〃	〃	曇	53	64	〃		87	缺
16	曇	〃	曇	缺	72	〃	〃	曇	64	曇	〃		雨	〃
17	83	〃	曇	缺	67	64	109	〃	〃	47	〃		77	〃
18	曇	〃	106	69	65	70	88	38	51	68	77		85	〃
19	曇	58	58	56	65	62	38	38	56	44	〃		64	〃
20	95	56	79	59	曇	缺	50	缺	缺	62	〃		70	〃
21	曇	51	缺	缺	65	75	58	67	45	53	55		39	曇
22	曇	雨	68	缺	60	59	56	58	58	46	〃		69	缺
23	62	50	57	36	58	缺	34	64	〃	51	〃		曇	〃
24	旅	31	66	曇	缺	〃	37	缺	〃	缺	〃		37	〃
25	〃	48	34	曇	43	32	24	〃	19	35	〃		40	〃
26	〃	曇	68	25	42	旅	23	〃	〃	33	〃		37	〃
27	〃	27	68	32	32	〃	25	〃	〃	17	20		曇	〃
28	38	旅	47	缺	35	29	〃	〃	〃	41	31		31	〃
29	36	〃	22	37	曇	〃	〃	〃	〃	39	41		56	〃
30	48	〃	56	33	47	〃	〃	〃	〃	25	40		48	〃
31	61	〃	缺	46	48	45	〃	〃	〃	24	47		55	23
觀測日數	16	14	13	19	22	19	20	13	19	19	10		22	9
一日平均	60	43	62	46	45	63	36	54	35	47	46		54	67
前月平均	87	82	66	68	79	78	49	63	66	92	—		77	—

氏よりも、又すばる會の堀田氏よりも報告を受けた。右に依れば、11日東端より出現、17日中央通過の一群が、北30度と杓掛、阿部兩氏により、又北28度と堀田氏より測定されたのが最高であつた。

更に阿部氏よりは毎日の各黒點の位置をば投影法により、可なり正確にスケッチした所の優秀な報告を受けた。猶ほ他にも斷片的なスケッチを若干の人より送付された。

訂正 天界233號、南北半球別比較の本記事(1939年9月分)南1.00に對し北2.40は、南1.00に對し北0.42の誤りであつた。(阿部氏より注意)右訂正する。

課告 先號、送付先變更を通知したが、都合により更に變更、岡山縣倉敷市住吉町 倉敷天文臺 太陽係宛とする。(1940年度1月分より)

1939年度の通算報告 阿部氏より詳細な報告を受けた。今後他の報告が出揃ふのを待つて纏めて發表するが、試みに同氏の報告中の一部を概略示して見ると觀測日數200日(一ヶ月平均16.7日、内最多は1月が24日、6月が9日)、相對數一日平均90.6(最高5月123.4、最低12月50.4)。南北の比は、南45%、北55%(但し11ヶ月平均)、南に多かつたのは4、5、6の3ヶ月、北に多かつたのは2、3、7、8、9、10、11、12の8ヶ月(各月とも%が示されて居る)。其他白班、同東西別、シューイング等の平均が出て居り、其等は別にグラフに圖示された詳細なものであつた。

又、堀田氏よりは、各群の緯度を報告、其れに依ると結局7月に出現した南32°と云ふのが最高になつて居る。未だ他の觀測者の報告は出て居ないが、相對數等の平均は勿論乍ら、何か各自の特色のあるものを加へて報告されると更に面白い。猶ほ、來年度からの試みとしては、現在の南北別の報告(觀測手引發表後増加した)の他に、東西別の觀測をすればどうかと思ふ。果して有効な結果が出るか否かは豫斷出來ないが、特に現在南北別の報告をして居ない人の奮起を望む。

約二ケ年間當課の御世話(臨時に)して來たが、其の間度々誤りを發表したりして課員諸氏に御迷惑を相掛けた事をお詫びする。近頃甚だ多忙となり、到底現在ほどにも御世話が出来兼ねる様にもなるので、一應他の適任者と交替するが、觀測はもう13ケ年近くも續けて來たのだから、今後も缺測は多くなるが、とにかく續行の心算である。課員諸氏の御鞭撻を希望する。

追加報告受理 1939年11月分、片山八郎氏、函館星の會より受理。(木邊記)

★ 變光星課 (1939年10、11月)

其後の概略課員の觀測狀況を示すと

氏名	1939年10月						1939年11月					
	第一部		第二部		計		第一部		第二部		計	
	星數	目測數	星數	目測數	星數	目測數	星數	目測數	星數	目測數	星數	目測數
木邊成麿	2	7	21	87	23	94	6	11	24	151	30	162
小澤喜一			41	282	41	282			45	537	45	537
岡林滋樹	11	32	1	6	12	38	11	36	2	11	13	47
山田達雄	3	6			3	6	3	16			3	16
清水直次	9	28			9	23	6	48	2	15	8	63
吉池浩暢	6	16			5	16	8	18	1	8	9	26
津留繁雄	5	12			6	12	5	6			5	6
沓掛七二									3	3	3	3
合計	30	98	41	375	71	473	28	135	45	725	73	860

上表の如くである。小澤氏の多量の報告が未着である爲めに、甚しく合計數が降つてゐるが、事實はもつと活況を示したものと思はれる。猶ほ12月分は、未着が大部分であるから次回に廻した。其れから報告先變更を前回告示したが、1939年12月分は依然木邊宛に願ひ、1940年度の觀測からが變更されるのである。

課告 別刷目下表紙印刷中故出來次第申込者に發送する。(木邊記)

★ 遊星面課 1939年度の火星觀測の綜合結果は本文中に發表しつゝある。觀測者各位の味讀を期待する。(伊達、木邊)

★ 彗星課だより 昨1939年には13ケの大小彗星が天上界に發見され、非常時にも拘はらず、學界を賑はしたが、つぎの今1940年は果して何星が現はれるか？ 今年中に近日點へ再歸する週期するものは下記の5彗星である：

要素	ジャコビニ	フィンレイ	フェ	ネウイミン	シヴスマン・ ワハマン
ω	171.83126	330.969	200.290	140.865	
Ω	196.21441	45.419	206.388	158.423	
i	30.75444	3.454	10.572	3.690	
\circ	45.78501	—	—	35.815	
a	—	45.176	3.80290	4.88926	
q	—	1.04852	—	—	
e	—	—	0.56600	—	
P	6.5877	6.84914	7.41606	—	
n	—	—	0.132902	328.203	
T	二月17.1387	四月20.02	四月23.0	五月8.26	
計算者	Cripps氏	Cronmelin氏	Henderson等	Rosmusen氏	

尙、上記のほか、B. A. A. ハンドブックには、1941年度に近日點へ歸つて來る彗星のうち、早くも1940年中に見えるものとして次ぎの2星を擧げてゐる：

星名 略符	ホイブル彗星	第二テムペル彗星
	1933 f	—
ω	190.1661	186.6818
Ω	188.8258	121.0280
i	10.2253	12.7261
ϕ	20.5389	33.7734
n	474.48	—
P	—	5.183112
a	3.8241	—
T	1941年一月13.34	—
M	—	0.4555
E	—	1941年二月15.0
計算者	H. Q. Rasmusen 氏	F. R. Cripps 氏

此等の位置豫報は、本會の急報に載せることとする。

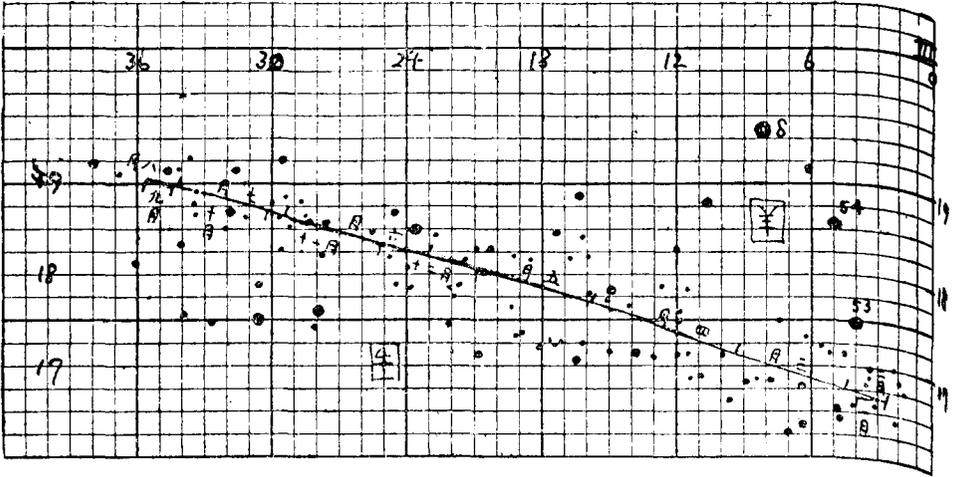
昨1939年の末を賑はしたフレンド岡林彗星は、其の後、多くの軌道要素が發表された。其の主なもの、

算出者	Maxwell 等	Vergnano 氏	Maxwell (2)	Rabe 氏	Vergnano 氏 (2)
T	十一月6.577	同 5.9995	同 5.6539)	同 5.744	同 5.647
ω	130°39'	127°28'	126°48' 06."3	126.963	126°51'
Ω	200 56	196 42	196 14 20.1	196.276	196 16
i	90 53	91 44	92 57 33.8	92.962	92 56
q	0.9263	0.9446	0.945385	0.94520	0.94546

★豫報課 國際協約により、今1940年中に、天體の豫報等に用ゐられる標準日附は下の如く決定されてゐる。

月 日 J. D.	五月 3日(242975 ¹ 日)	九月 8日(2429882日)
一月 4日(2429634日)	11 (2429762)	16 (890)
12 (2429642)	19 (770)	24 (2429898)
20 (650)	27 (778)	十月 2 (2429906)
28 (658)	六月 4日(786)	10 (914)
二月 5日(666)	12 (794)	18 (2429922)
13 (674)	20 (2429802)	26 (930)
21 (2429682)	28 (810)	十一月 3 (938)
29 (690)	七月 6日(818)	11 (946)
三月 8日(698)	14 (826)	19 (954)
16 (706)	22 (834)	26 (2429962)
24 (2429714)	30 (2429842)	十二月 5日(970)
四月 1日(2429722)	八月 7日(850)	13 (978)
9 (730)	15 (858)	21 (986)
17 (738)	23 (866)	29 (2429994)
25 (746)	31 (874)	

本年中の天王星の運行圖
 (赤経は3時0分から36分まで, 赤緯は北17°から19°まで)



本年中の海王星の運行圖
 (赤経は11時32分から56分まで, 赤緯は北2°から4°まで)

